

報徳文化研究所だより

(2024.01.14 報徳文化研究所)

ご案内のように大日本報徳社では、現在、報徳図書館に収蔵しているすべての史料を対象にして台帳整理（リスト化）作業を進めています。

事務局では、台帳整理を終えた史料について、いつでも閲覧できるように準備しています。そこで、近々公開・閲覧予定している史料について、下記に紹介します。

① 磐田市見付 第一報徳社寄贈史料 目録点数 571点

(内容) 遠江国報徳社との関係、見付信用組合のこと、第一報徳社の経営・運営・出納帳等、他報徳社との関連文書等

【閲覧の手順】

- ① 大日本報徳社事務局に問合せしてください。(☎0537-22-3016)
 - ② 事務所で、史料台帳から閲覧を希望する史料を探して、閲覧申請してください。
 - ③ 後日、指定日に報徳図書館で希望する資料を見ることができます。
- ※ 史料は、申請したその日に閲覧できません。史料を書庫から出す時間がかかりますので、ご理解ご協力をお願いいたします。

遠江国報徳社第二館と見付第一報徳社

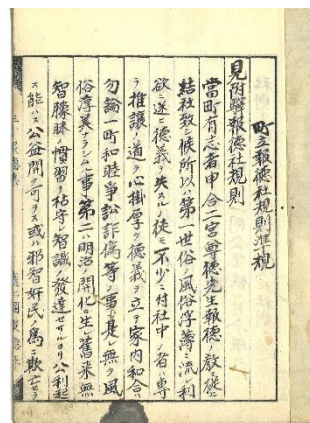
報徳文化研究所資料整理調査員 足立洋一郎

今回は、現在調査中の見付第一報徳社の沿革や遠江国報徳社第二館のことについて述べたいと思います。

1 遠江国報徳社第二館、見付に設立

見付第一報徳社は、江戸時代の宿場町で現在の磐田市見付に設立されましたが、この見付第一報徳社をはじめとして中遠地域の多数の報徳社を統括したのが、遠江国報徳社第二館でした。まず、第二館から述べていきます。

1875（明治8）年11月、幕末から明治初年にかけて遠州地域に設けられた報徳社を糾合して浜松町（現浜松市）の玄忠寺に遠江国報徳社が設立されました。社長には岡田佐平治が選任されましたが、病のためまもなく長男良一郎に代わりました。1877（同10）年、玄忠寺を第一集会所とし、見付町の金剛寺に第二集会所が開設されました。78（同11）年、掛川に遠江国農学社が設立され、ここに第三集会所が設置されました。この集会所が後に本社第一館から第三館となりますが、見付の場合は、1884（明治17）年に新たに第二館が同町内に設立さ

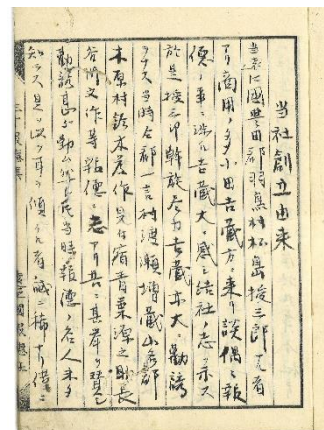


第一報徳社規則

れました。現在は、大日本報徳社中遠報徳館として建物が現存しています。また、第一館も 85（同 18）年に現浜松市中区元城町に新設され、後に大日本報徳社浜松報徳館となり、現在も西遠連合報徳社が毎月常会を開催し、活発に活動されています。これらのうち本社第二館の常駐（常勤者）として中遠地域の報徳社を指導したのは、遠江国報徳社副社長も務めた伊藤七郎平でした。

2 見付第一報徳社の沿革

さて、見付第一報徳社もこの第二館の指導を受けました。見付第一報徳社は、「記録簿」によれば、豊田郡羽鳥村（現浜松市）の松島綏三郎から報徳の話聞き感銘を受けた小田吉蔵が有志を募り 1871（明治 4）年 12 月 10 日、「愛国社」を結成したのがはじまりでした。社員は 11 人でした。自由民権運動の結社のような名前の「愛国社」は、毎月 1 回会議を開き、「二宮先生ノ遺教二則リ道義ヲ研究シ余業ニ陶策（縄ない）」を行い、善種金の積立をしました。1879（同 12）年、社名を「見付宿報徳社」と改称し、新たに「土台金積立法、加入金取扱法」を設けました。



第一報徳社記録簿

既述のように 1884（明治 17）年本社第二館が見付に常設されると、50 円を寄付し、以来本社の監督を受けることになりました。

1885（同 18）年 10 月、「見付駅報徳社規則」が制定され、本社社長の岡田良一郎に提出されました。連署している社員は 19 人、社長は齋藤栄三、副社長は小田吉蔵と中根与平次でした。

1886（明治 19）年に本社より土台金 2 円が寄付され、さらに 1890（同 23）年には「見付町第一報徳社」と改称し、1898（同 31）年 12 月 26 日に民法に定める公益法人として認可されました。翌年 1 月には法人登記が終了しています。

3 なぜ、「第一」なのか？

この見付第一報徳社で少し気になることがあります。それはなぜ社名に「第一」が入っているかということです。

見付第一報徳社に改称した 1890 年段階で、見付町には第一報徳社のほかに、報養報徳社、積善報徳社、進立報徳社、見付第三報徳社、誠実報徳社、永続報徳社、徳行報徳社、勤行報徳社がありました。このうち古いのは、報養報徳社ですが、同社では 1880（明治 13）年 12 月には「規則」を制定しています。「規則」の制定は見付第一報徳社より早いのですが、第一報徳社には「愛国社」の時期もあり、当地域ではもっとも古い報徳社であったかと思われます。そのため「第一」と付けられたのではないのでしょうか。とはいえ、現時点では憶測なので、今後実態解明をする中で、検討していきたいと思えます。

【募金活動実施中】

報徳文化研究所の活動は、皆様の浄財によって運営しています。
ご寄付はいつでも受け付けておりますので、皆様のご支援をよろしく
お願いいたします。

連絡先：（公社）大日本報徳社
☎（0537）22-3016